

研究機関：広島大学

研究課題名

原爆被爆者における動脈硬化に関する研究

研究責任者

未来医療センター センター長 東 幸仁

研究期間 2021年8月10日(承認日)から2025年12月31日(解析期間等含む)

対象者

2000年1月から2024年12月の間に広島大学循環器内科で血管機能検査を受けられた患者さん。

意義・目的

従来、放射線被ばくによる心血管への影響は数十Gy以上で起こるとされてきましたが、原爆被爆者疫学調査など長期データの解析から、より低線量から心血管疾患リスクが上昇することが示唆されています。放射線による心血管への影響は確定的影響と考えられ、閾値が設定されています。現在0.5Gyの閾値が設定されていますが、0.5Gy以下の線量被爆による心血管への影響ははっきりわかっていません。

2003年までの原爆被爆者疫学調査による心血管イベントは、0.5Gy以下では関連がないと報告されています。原爆被爆から75年が経過してきており、超長期にも同様のことが言えるが明らかになっていません。低線量被爆が長期にわたって、動脈硬化を促進している可能性があり、動脈硬化を評価し明らかにすることは、被爆者にとって非常に重要です。動脈硬化の指標として様々な血管機能検査・方法が開発され、動脈硬化を早期に発見し、動脈硬化重症度判定を行うことができます。原爆被爆者の現在の動脈硬化を評価することで、超長期の低線量被爆の影響を明らかにすることを目的とします。

方法

当院で血管機能検査を受けられた患者さんの診療録(カルテ)情報をもとに、患者背景を調査します。

○利用する情報

血管機能検査結果、被爆線量、年齢、性別、身長、体重、腹囲、血圧、総コレステロール、中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール、HbA1c、血糖値、クレアチニン、尿素窒素、尿酸、CRP、フラミンガムリスクスコア、心血管病の有無、治療薬(糖尿病治療薬、降圧薬、脂質異常症治療薬、心血管疾患治療薬他)、生活習慣、脳心血管疾患発症の有無など。

共同研究機関 ありません

定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をおかけすることはありませんのでご安心ください。

研究に情報を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生じることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

Tel : 082-257-5802 広島大学 未来医療センター 東 幸仁